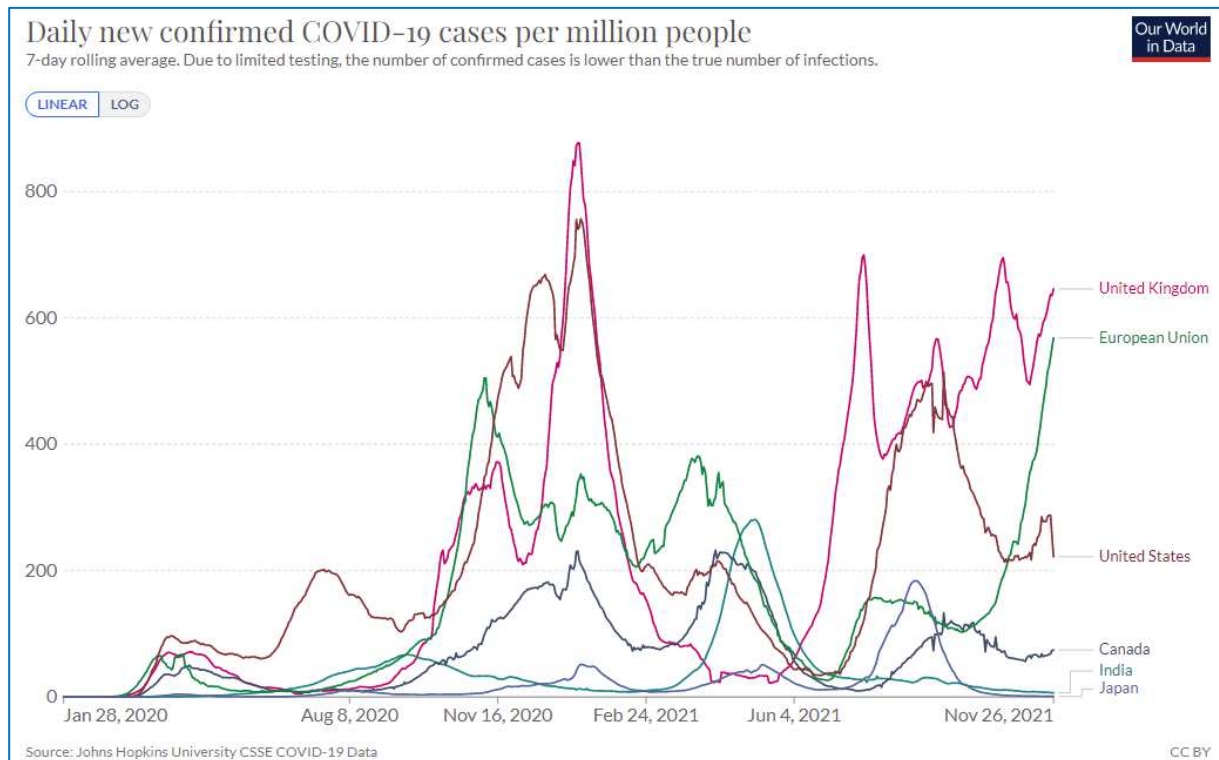


1. コラム「論点提起」：コロナ禍をイノベーションの契機として変われるか如何

コロナ禍発生からほぼ2年が経過した。2021年11月28日時点で、新型コロナウイルスの世界の感染者は2億6千万人を超え、死者も519万人に達している。現在も、世界では感染再拡大の状況が見られる中、日本では小康状態となっている。遅れを取っていたワクチン接種率(2回目)も、11月14日に75.5%に達し、G7で首位となった。しかし、WHOが11月26日に、新たに「懸念される変異株」に指定し命名した「オミクロン株」の脅威もあり、予断を許さない。



出典：Our World in Data <https://ourworldindata.org/coronavirus#coronavirus-country-profiles>

この2年間、コロナ禍の対応の過程で、ワクチン・治療薬の開発・確保の遅れ/失敗、コロナ禍対応システム開発・運用の拙さ、医療崩壊による自宅療養/放置死、リスク・コミュニケーションの失敗等々、日本の社会システム(仕組み)が抱えている実態とのギャップ、脆弱性、リスク等の課題が露わになった。

これらの根底には、基礎研究の継続性を支える仕組み、先端型 IT/デジタル人材が育つ環境づくりの仕組み、平常時と非常時の切り替えの仕組み、そしてイノベーションが興る仕組み等の課題があり、まさに社会システム全般に渡る課題である。

その根底には、日本社会のリスクに対する感度の鈍さがあるのではなかろうか。正しく未来に対するリスク認識ができなければ、リスク対応ができない。変われない。パンデミックがイノベーションを招くことは歴史が証明している。パンデミックを契機に今後、世界は大きく変わることが予想される。すでに、その兆しも見え始めている。日本がそうした認識を持ち、イノベーションしながらレジリエントな社会に変わる必要があるが、果たして変われるか如何。